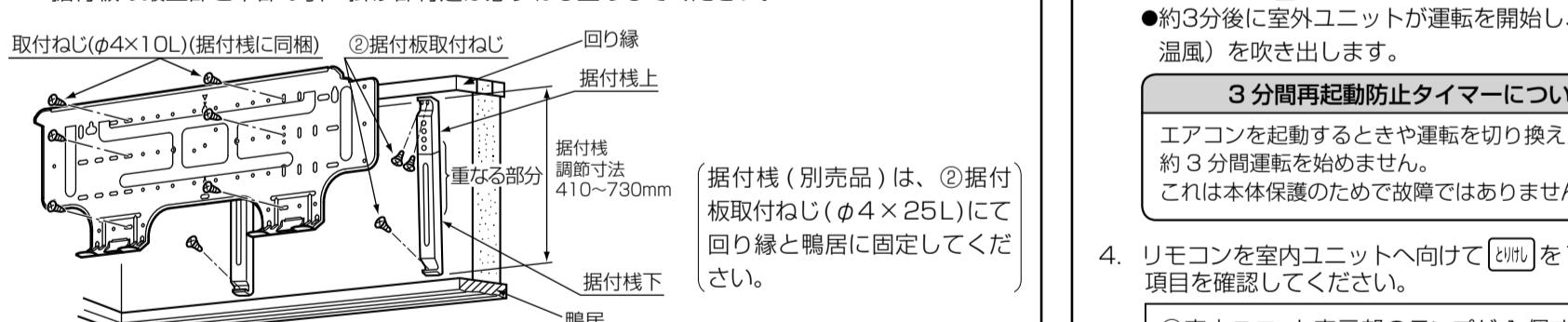


## 別売品や幹旋品を使用した据付方法

### 1. 据付桿 (RB-I01K2またはRB-I02K2)

#### 回り縁と鶴居を利用する場合

- 据付桿上・下を回り縁下面から鶴居上面までの寸法に調整し、据付桿に同様の取付ねじ(Φ4×10L)で据付板を仮止めします。
- 仮組みした据付板と据付桿を①据付板取付ねじ(Φ4×25L)で回り縁と鶴居に固定します。
- 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
- 据付板の最上部と下部の引掛け部附近は必ずねじ止めしてください。

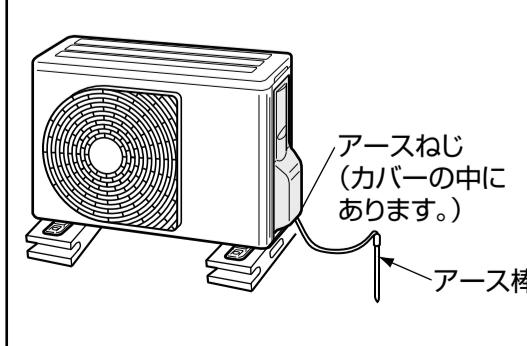


- 据付板を据付桿上と据付桿下で重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付桿下の裏から止めください。  
(六角ナットはRB-I01K2・RB-I02K2に同梱しています。)
- 据付桿は上と下を使用し、据付桿取付ピッチ(型紙に記載)で取り付けてください。  
このように取り付けない場合は、ビリ音が発生することがあります。

### 2. アース棒 (RB-Y12)

#### 室外ユニットからアースを行う場合

アース棒(別売品)をお使いください。



### 3. その他

#### 降雪・寒冷地域の据付

- ドレン排水は「ダレ流し」にしてください。  
積雪から保護するため、「台座」に据え付け、防雪フード・防雪板または防雪屋根を取り付けてください。  
※一段階きはしないでください。

積雪ラインより50cm以上に据え付けしてください。

(27cm) (20cm)

防雪屋根  
正面  
防雪フード(背面用)  
(22クラスには取り付けできません)

50cm以上

アンカーポート  
別売「室外機高置台」使用例

## 据付工事完了後、必ず実施してください

### フィルター動作チェックと試運転

#### フィルター動作チェックと試運転

■エアフィルター組込確認ポイント

①ダストボックスをはずし、エアフィルター（2枚）を正しい位置にセットする。  
(はずしたときはダストボックスのラベルに記載してあります。)

※左右のエアフィルタ先端がブラシとブラシ枠の間に平行に差し込まれていることを確認する。



②コンセントに電源プラグを差し込みます。

③リモコンの「」を押します。

冷房の場合、で設定温度を17℃にします。

暖房の場合、で設定温度を30℃にします。

●約3分後に室外ユニットが運転を開始し、冷風（暖房の場合は温風）を吹き出します。

#### 3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。

これは本体保護のため故障ではありません。

4. リモコンを室内ユニットへ向けてを10秒以上押すと、次の項目を確認してください。

①室内ユニット表示部のランプが1個ずつ順次点灯し（下図）、エアフィルターが往復動作します。（約2分）

②エアフィルターの動作が正常に完了したとき、ランプが消灯します。

エアフィルターの動作が異常の場合、お手入れランプが速く点滅（1秒間に5回）します。エアフィルター動作チェック中にお手入れランプが早く点滅した場合は、を押し電源プラグを抜き、エアフィルター組込確認ポイントをチェックした後、再度2項目からエアフィルター動作チェックを行ってください。

5. ランプの点灯が順次点灯から運転ランプの点灯に切り替わり、エアフィルター動作チェックが終ったとき、ランプが消灯します。

6. 試運転確認終了後、を押し、運転を停止します。



①ダストボックスを確実にロックする。

1. ダストボックス中央をカチッと止まるまで奥に押し込む。

エアフィルター ブラシ枠

2. エアフィルターの動作が正常に完了したとき、ランプが消灯します。

エアフィルターの動作が異常の場合、お手入れランプが速く点滅（1秒間に5回）します。エアフィルター動作チェック中にお手入れランプが早く点滅した場合は、を押し電源プラグを抜き、エアフィルター組込確認ポイントをチェックした後、再度2項目からエアフィルター動作チェックを行ってください。

3. ダストボックス固定用レバーを押しながらの方向に止まる位置までスライドさせる。

エアフィルター ブラシ枠

4. ロック確認用窓の色が「」から「」に変わります。

エアフィルター ブラシ枠

## こんなとき

### 室内ユニットが運転せず、運転ランプが点滅する

●電源電圧が200Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

### 室外ユニットが運転せず、運転・タイマーランプが点滅する

●Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。

### エアコンが誤動作する

●同じ部屋または、近接する部屋に2台室内ユニットを設置した場合、1台運転をするときに2台同時にリモコン信号を受信し、運転してしまうことがあります。

このような場合どちらか一方の室内ユニットでリモコンを、B設定（工場出荷時は、どちらもA設定です。）にすることで誤動作を防ぐことができます。

●室内ユニットとリモコンの設定が異なる場合は、リモコンの信号を受け付けません。

### 1. リモコン側の設定

①リモコンはB設定の場合のみ「B」と液晶表示されます。「A」の表示はありません。

●乾電池を入れて、先の細いもので「リセット」ボタンを押してください。

●先の細いもので「点検」ボタンを押します。（表示が「0」になります。）

●点検ボタンを押したまま、風量ボタンを押すと表示部の左下に「B」が表示されます。（「A」に戻す時は、「リセット」ボタンを押してください。）

### 2. 室内ユニット側の設定

●室内ユニット側の設定

●一度B設定すると、停電に関係なくB設定を記憶します。（運転を開始します。）

自運転 リセット

### お知らせ

一度B設定すると、停電に関係なくB設定を記憶します。

●運転したリモコンの「冷房」ボタンを押して冷房運転をします。（室内ユニットが「B」となります。）

●停止ボタンで停止します。

### 3. 動作確認

●変更したリモコンで室内ユニットが運転することを確かめてください。

### 据付後の取りはずしかた(移設時など)

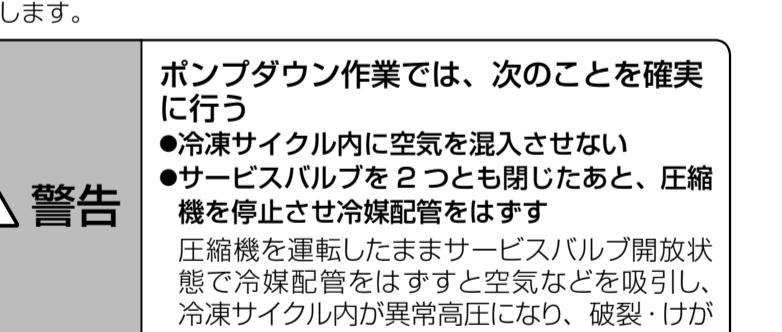
#### 室内ユニット

室内ユニット下側の「PUSH」を上に押しながら手前に引きます。



#### 室外ユニット

地球環境保護の観点から、ポンプダウン（冷媒回収）をしてから取りはずします。



#### ポンプダウンのしかた(移設時など)

①室内ユニットの前面パネルを開け、「自動運転・リセット」ボタンを約10秒間押します。（ヒビッと音がして冷房運転が始めります。）

②5分～10分後に液漏れの確認のため、ガス側サービスバルブの弁棒を開めます。

③更に2分～3分冷房運転後、ガス側サービスバルブの弁棒を閉め、運転を停止します。

④液側とガス側の接続配管を取りはずします。

#### 既設配管再利用のときのご注意

●古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。

●配管内厚が0.8mmあること。（JIS規格の配管）

●フレアはR32対応に切り直し、Φ12.7mmの既設配管のときはフレアの寸法の変更が必要です。

●ポンプダウンができないとき・配管内部に黒帯に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。

●施工には、R32対応の工具を使用してください。

●一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは買い換えるエアコンに合った新しい配管を使用してください。

●配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などが無いか点検してください。

●配管以外の部材（断熱材や配管支持部材など）も再使用可能な点検してください。

●再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。